

人権・労働慣行

ミッション：基本的人権と責任ある労働慣行を推進する

私たちは、多様な人々を受け入れる文化を醸成します。ブリヂストングループの全ての事業体と事業拠点は、倫理的な労働慣行を取り入れ、従業員と信頼関係を築き、多様性と基本的人権を尊重します。

2018年、ブリヂストングループは「グローバル人権方針」を策定しました。「グローバル人権方針」は、ブリヂストングループやその従業員が遵守すべき基本的人権に関する諸原則を示しており、ダイバーシティとインクルージョンの尊重、差別とハラスメントの禁止、職場の安全・衛生の推進、適正な労働環境整備の推進、言論と結社の自由の保障、という5項目で構成されています。

ダイバーシティとインクルージョン（D&I）の尊重は、様々なバックグラウンド、文化、経験を持った多様な人材で構成されるブリヂストングループのようなグローバル企業においては、特に重要な要素です。この考え方のもとに、以下のような具体的な取り組みを行っています。

- ・米国では有志の従業員グループ（ERGs）が組織され、アフリカ系アメリカ人、LGBTQとアライ²¹、退役軍人、女性、若い世代などさまざまな人々のための支援ネットワークを構築しています。
- ・ブリヂストン アメリカスは、10年以上前からナッシュビルのPRIDEフェスティバルのスポンサーであり、2018年にはダイバーシティとインクルージョンの推進のため「D&Iコミッティ」を組織しています。
- ・ブリヂストングループでは、世界各地の事業所で柔軟な働き方を尊重、奨励しており、日本やBSEMEAなどの多くの職場では保育施設を設けるとともに、有給の育児休暇や介護休暇、ボランティア休暇などの制度が導入されています。

・ブリヂストンは、日本国内の企業や団体のLGBTなどの性的マイノリティに関する取り組みを評価する「PRIDE指標2018」において最高評価である「ゴールド」を受賞するとともに、6年連続で女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」に選定されています。

・他にも、Bridgestone Hispaniaは、家族にやさしい企業に与えられる認証（efr certification）を受けています。

人権デューデリジェンスの一環として、ブリヂストングループでは新事業やプロジェクトの開始に際して、人権や労働慣行におけるリスクを洗い出しています。

またブリヂストングループの事業拠点がある各地域では、従業員のエンゲージメントと会社に対する満足度について定期的に調査を実施しています。

なお、ブリヂストンの人権関連データについては、第三者機関であるロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッドの検証を受け、情報の正確性と透明性の確保に努めています。

詳しくは、[Webサイトをご覧ください。](#)



²¹LGBTQは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア／クエストショニングを意味する表現。アライはLGBTQを理解し、支援する人を指す。出典：GLAAD Media Guide